

## 進路指導室から 第324号

### はじめに

4月も終わりに近づいています。桜が満開だった約1か月前とは大きく変わり、新緑が鮮やかな映える季節になりました。

さて、昨今の今頃は新型コロナウイルス感染症が再び全国的に拡大し、一部の地域では非常事態宣言が出されました。現在、国の方針として「地域一斉の臨時休校を要請しない」ことが示されていますが、今後の行方が心配です。

### 「合格者体験記」について

基町高校では、毎年、大学等の合格者に「合格者体験記」の作成を依頼しています。今年も多く卒業生が「合格者体験記」を残してくれました。あらためて一枚一枚の「合格者体験記」に目を通す中で、彼らの学校生活や合格に至るまでの努力の跡を垣間見ることができます。紙面の関係でそのすべてを掲載することはできませんが、その一部を紹介します。内容は、「進路決定の時期・方向」についてです。

- 2つの大学で迷っていましたが、1年生の秋にパンフレットを読んで、卒論のテーマが自分のしたい研究に近かったので、北海道大学を視野に入れるようになり、2年生の春に担任の先生との面談で、自分を取りたいと思っている資格が取れることを教えていただき、北海道大学を第一志望に決めました。(北海道大学文学部人文学科)
- はっきりと大学と学部を決めたのは3年生の春頃です。もともと生物が得意で、生物学に興味があったため大学で学問として学びたいことを突き詰めて考えると生物学だということに気づきました。私は植物より動物のほうに興味があったため、これも加味して大学を探し、お茶の水大学理学部生物学科に行き着きました。(お茶の水女子大学理学部生物学科)
- 第一志望を一橋大学に決定したのは中学3年生の高校受験後でした。もともと自分の得意科目である数学・社会を活かす経済学には興味をもっており、その中で「小人数制の研究ゼミ」「自分のペースに合わせて履修可能」という特徴をもつ一橋大学経済学部の魅力を感じました。また、学部の垣根を超えての履修が可能であり、加えて東京工業大学との間で学生交流に関する協定を結び、遠隔講義により行われる東京工業大学の授業科目を履修できるという等、自身の学部にとらわれない広い視野をもって学問探究を進めることができる環境が整っている点も魅力の一つでした。(一橋大学経済学部)
- 1年生の修学旅行のコース決め時点で建築学を学ぶことは決めていました。2年生の時にいろいろな大学のオープンキャンパス以外の時に訪れて、大学とその周辺の雰囲気を見てほしいの志望を決めて3年生8月に具体的な学びたい学科と自分の学力を考えて選びました。(横浜国立大学都市化学部建築学科)
- 基町入学時より、京大に憧れを抱いていました。3年生の秋までは理学部を志望していましたが、大学のホームページを利用して研究室を調べたり、教科担任やクラブ参与の先生にアドバイスいただいたりして、より自分の興味分野に合った工学部工業化学科に出願することを決めました。また、私は京大と東大のオープンキャンパスに参加しました。モチベーションにつながるので、ぜひ参加してみてください。(京都大学工学部工業化学科)
- 入学前に受けたスタディサポートの結果が返ってきたときに心理系の学部・学科を勧められ、そうした学部をもつ大学について1年生の春から夏の時期に調べて意識し始めました。毎回の模試の目標点として設定し、さらに調べ学習をするうちに志望校として本気で考えるようになりました。(大阪大学人間科学部人間科学科)
- 中学生の頃から考えていた「途上国支援」という将来の仕事を意識して学部や学科だけに注目して大学を探索していた際に偶然にこの学科を見つけ、その時なぜか漠然と模試の志望校に大阪大学の文学部、外国語学部と書いていて、大阪大学に入りたいという思いと重なり、絶対に大阪大学法学部国際公共政策学科に行くこと決めました。(大阪大学法学部国際公共政策学科)
- 中学生の時から大学では文学部に入って古典の勉強をしたいと思っていたので当時の都があった関西圏への進学を意識して神戸大学を選びました。2年生の夏、実際に大学に行ってオープンキャンパスに参加して、いい先生方と良い研究ができそうだと感じ、同時に神戸の素敵な街で大学生になることを期待して、そこから本気で神戸大学を志望するようになりました。(神戸大学文学部人文学科)
- 家族から県内大学を頼まれていたので1年生の夏には広島大学に決めていました。総合科学部や教育学部の

社会系コース、心理学コースと細かい学科で悩みましたが、3年生の夏に模試の成績と自分の学びたい分野を照らし合わせて、教育学系コースを選びました。(広島大学教育学部人間形成基礎系(教育学系))

- 入学当初から、ぼんやりと広島大学の教育学部に行きたいなと思っていました。その後、広島大学のオープンキャンパスに行って志望するコースに所属する教授の授業をお聞きしたり、他の学部を見学して比較検討したりするうちに、広島大学の教育学部にこだわるようになりました。(広島大学教育学部言語文化教育系(国語文化系))
- 中学生時代に教員になりたいと思い始め、高校1年生の頃にいろいろ大学調べをしているうちに広島大学の教育学部の評判がいいことを知り、その年のオープンキャンパスで「ここに行きたい」と思うようになりました。決定したのは高校2年生の冬頃で、先輩が受験シーズンのいよいよ大詰めだという時期に考えをまとめました。(広島大学教育学部科学文化教育系(自然系))
- 私は中学生の頃から美術教師を目指していました。高校1年生の時に、美大に行くか、教育系の大学に行くかすごく悩み、美大と教育系大学のオープンキャンパスに行きました。オープンキャンパスに行くと、自分には教育系大学の方が合っていると思い、高校1年生の夏から秋頃には進路決定をしていました。やはり、オープンキャンパスには行ってみた方がいいと思いました。(広島大学教育学部生涯活動教育系(造形芸術系))
- 入学当初から広島大学医学部を志望しており、3年間第一志望が変わることはありませんでした。学部系統は、医療系しか考えておらず、文理の選択が自分にとって大きな分岐点でした。多くの医療系の職種は理系に進まなければ資格を得ることができないが、自分が関心があった看護には文系からも進学できることを知り、より得意な科目を武器にできる文系から受験することのできる大学を志望しました。(広島大学医学部保健学専攻)
- 幼い頃から本を読むことが好きで、高校入学前から大学では日本文学について学びたいと考えていました。1年生でさまざまな大学のオープンキャンパスに行ったところ唯一私の研究したい分野の卒業論文があったのが広島大学でした。成績も考慮し他大学も検討しましたが、3年生の秋頃には第一志望として固めたと思います。(広島大学文学部人文学科)
- 1年生の早い段階から広島大学薬学部薬学科を志望していましたが、3年生の後期に薬の研究分野に興味をもち、研究に専念できる薬科学科へと志望を変えました。もともと、小さいころから病院で出される薬に興味をもっていたので薬学部に入りたいという気持ちはもっていました。(広島大学薬学部薬科学科)
- 1年生の頃から県内の国立大学である広島大学を志望していました。1年生の夏休みにオープンキャンパスに参加し、大学の雰囲気を味わいました。3年生になっても志望は変わりませんでした。(広島大学法学部法学科)
- 最初は医者になりたいなと漠然と考えていましたが、修学旅行や大学などいろいろ調べていくうちに、医療機器など工学の面から人々を助けたいと思うようになり、工学での実績があり研究室が充実している九州大学を選びました。(九州大学工学部Ⅲ群)
- 私が進路を決定したのは3年生の春です。休業期間中に進路について考える時間を十分にとることができたので、インターネットやパンフレットを利用して大学概要や入試についてなど、さまざまな視点から大学を調べました。また、オンラインオープンキャンパスを両親とともに見て、アドバイスをもらいながら慎重に決定しました。(九州大学芸術工学部インダストリアルデザインコース)
- もともと国公立大学で社会学が学べる大学に進学するつもりだったのですが、母の強い希望で首都圏の大学を目指すことになり、理系科目と小論文が苦手だったこと、首都圏で社会学系の学部がある国公立大学は非常にレベルが高いこと、私立大学は選択肢が多く受験の形式が自分に合っていることなどをふまえて、3年生の進級前後に私立大学にしぼって受験することに決めました。以前から国公立・私立関係なく首都圏で興味がある大学の教員やシラバスを片っ端から調べていたので、志望校もそこから選ぶかたちですんなりと決まりました。(明治大学国際日本学部国際日本学科)
- 受験する大学を決めたのは3年生の冬頃でした。武蔵野美術大学が第一志望なので、授業内容が似ている多摩美術大学を第二志望にしました。私のなかで大切だったのは「東京にある」「自分の専門外のことも学べる(他学科の専攻領域、勉強面など)」「学校内外での交流が盛ん」「就職したい企業に行っている人がいる」といったことだったので、それらを条件に選びました。ギリギリまでは受ける大学を絞る必要はないと思いますが、専攻や大学で学びたいこと、譲れない条件などはしっかりもっておくと迷わないと思います。実際、私は条件や専攻は2年生の時には決まっていた。(武蔵野美術大学造形学部油絵専攻)

## 終わりに

「合格者体験記」を読みながら、オープンキャンパスへの参加の大切さを感じました。このような状況ですから、今年はどうなるのか気になります。

(文責：進路指導部 池本 邦彦)